



水 土 里 ネット ちば

2015
平成27年

No.305 冬号
(新年号)



第20回美しい農村環境写真コンテスト 銀賞 「どんど焼き」 撮影場所：印旛郡栄町安食 撮影者：下谷 一成

CONTENTS

新年の挨拶 成長産業への第一歩を		「新たな農業に対応した土地改良区・市町村の役割に関する説明会」を開催	12
全国土地改良事業団体連合会長表彰	01	平成26年度利根川水系農業水利協議会千葉県支部研修会の報告	13
平成26年文化の日 千葉県功労者表彰		千葉県農村地域再生可能エネルギー推進協議会 第2回地方研修会の報告	14
「農業農村整備の集い」開催される	02	平成26年度農村振興リーダー研修会(関東ブロック)に参加して	15
関東一都九県土連協議会で提案・要請要望活動を実施	03	第12回印旛沼流域環境・体験フェア	16
千葉県農業農村整備技術講習会・発表会について	04	年男あつまれ!	17
第37回全国土地改良大会(山梨大会)に参加して	06	今後の会議・研修会の開催予定	18
国営かんがい排水事業「両総地区」完工式が開催される	08	第18回 千葉の水回廊ウォーク& 疏水百選 印旛沼ウォークのご案内	20
土地改良区向け公庫資金のご案内	10		



成長産業への第一歩を

水土里ネット千葉
(千葉県土地改良事業団体連合会)

会 長 林 和 雄



新年おめでとうございます。

日頃は、水土里ネット千葉の運営に対しまして会員の皆様はじめ関係各位の温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、ついに米価が1万円を割り込み、農業者にとって衝撃の大きな年でありました。

何より、政府が農業を成長産業として確立すべく、農政改革を打ち出し、農地中間管理機構や日本型直接支払制度を創設し「農林水産業・地域の活力創造プラン」の策定で「10年で所得倍増」と大きな掛け声のかかった矢先、また、千葉県としても農林水産王国 千葉の復活を目指して「農業産出額全国第2位の奪還」を声高に掲げたところであり、出鼻をくじかれたという思いです。

今後の農政の展開に、多くの問題が生ずることが懸念されます。

特に、土地改良事業は受益者負担が伴うものであり、新規事業の推進などは、今まで以上に大きな苦勞と困難が予想されます。しかし、この難局を乗り切ることが出来るか否かが日本農業、地域農業にとって、まさに正念場であります。

現在、水土里ネット千葉の会員は188土地改良区と51の自治体であります。それぞれの土地改良区は今まで以上に地域の個性を発揮すべきであり、自治体やJAとの連携も、より密にすべきであると思えます。

そして、例えばおいしい米の穫れる地域は付加価値をつけ、有利に販売する工夫や努力も必要であり、また、そうでない地域は飼料や加工米で所得の安定確保を農業者と共に考え、汗を流すべきでしょう。

長年、他産業の良いところと農業の悪いところの比較ばかりが目立ちますが、どの産業も盛衰はつきもの。今の時代だからこそ、農業を成長産業にさせることは可能ではないでしょうか。

この大きな変革期に最も大切なのは人の和、地域の和であり、リーダーの指導力発揮が地域農業発展のキーワードであると思えます。

水土里ネット千葉は、新しい農政の推進、成長産業としての農業の確立に、より大きく寄与できる土地改良事業の推進に会員の皆様と共に全力で取り組んで参ります。

引き続きましてのご理解とご協力をお願い申し上げ、会員各位のご発展をお祈りし、新年の挨拶といたします。

全国土地改良事業団体連合会長表彰

第37回全国土地改良大会(山梨大会)において、永年、土地改良事業に貢献した方々が表彰され、千葉県からは印旛沼土地改良区理事長の泉水源衛氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されましたので、ここに紹介させていただきます。

永年のご功績に対し謹んで敬意を表しますとともに、今後ともますますご健勝でご活躍されますことをお祈り申し上げます。



泉水 源衛氏

(主要経歴)

印旛沼土地改良区 理事長
千葉県印旛郡市土地改良協会 会長
千葉県土地改良事業団体連合会 理事

平成6年4月、印旛沼土地改良区の下部組織(維持管理組織)である公津支区(基盤整備:甚兵衛揚排水機場 受益:405ha)の支区長に就き、3期6年間、土地改良施設の管理、施設の利用調整など、責任者として受益者の利便を第一に考え行動した。

平成9年11月には、総代に就任し、支区運営の責任者である傍ら土地改良区の運営にも手腕を振るうこととなった。さらに、平成17年12月、理事となり、二期目の平成21年12月から副理事長に就いた。副理事長就任の頃は、国営印旛沼二期農業水利事業の概算要求や同意徴集の時期に重なり、理事長の補佐役として同事業の進捗を図った。

理事3期目となる平成25年12月、副理事長としての手腕と現場主義の行動力がかわれ理事長に互選され現在に至る。

現在は、平成22年度に着手した国営印旛沼二期農業水利事業の早期完成に尽力し、一方、これに付帯する関連事業や施設管理方針の策定にも関わり、総じて国営基幹事業の竣工に合わせ維持管理費の軽減が図れることを模索している。また、印旛沼の環境問題では、水質問題を取り上げ「きれいな水で米を作りたい」を胸に関係首長と意見交換を行うなど、これにも現場主義を貫いている。会議、調査だけでは改善せぬ環境問題と認識し、印旛沼干拓竣工後半世紀が過ぎた今、関係首長との共同歩調で浚渫や流動化など具体的なメニューを示し印旛沼の再生を目指している。

平成26年文化の日 千葉県功労者表彰

文化の日にあたり、各方面でそれぞれ顕著な功績を挙げ、千葉県の発展に多大な貢献をされた方々に対し千葉県知事から表彰があり、手賀沼土地改良区理事長の阿曾亮一氏が「農林水産功労」(土地改良関係)として表彰されました。

永年のご功績に対し心より感謝の意を表しますとともに、今後ともますますご健勝でご活躍されますことをご祈念申し上げます。



阿曾 亮一氏

(主要経歴)

千葉県手賀沼土地改良区 理事長
千葉県東葛地域土地改良協会 会長
千葉県土地改良事業団体連合会 理事

平成10年8月千葉県手賀沼土地改良区理事に就任、以来誠実にして責任感が強く、広く組合員の信望を得、平成17年4月に理事長に互選され現在に至る。

この間、東葛地域土地改良協会長、千葉県防災会議委員、千葉県土地改良事業団体連合会理事を歴任し、地域農業の発展のため尽力されました。

「農業農村整備の集い」開催される

～平成27年度当初予算の確保を要請～

水土里ネット千葉 総務部

平成26年11月25日、東京・平河町の砂防会館別館「シェンバッハ砂防」において「農業農村整備の集い」が開催されました。

衆議院が解散した直後にもかかわらず、小泉昭男農林水産副大臣をはじめ、石破茂地方創生担当大臣、二階俊博自民党総務会長、稲田朋美政調会長、農村振興局幹部ほか、全国から約700人にのぼる土地改良区の関係者が参集し、盛大に行われました。



主催者挨拶をする
野中広務全国水土里ネット会長

大会では、冒頭全国水土里ネット野中広務会長は挨拶の中で、「農業は地域の根幹をなす重要な産業の一つであり、農業・農村の振興は地方再生に重要な役割をなす。農村地域を守り繋ぐ組織としての使命を再認識し、国が目指す方向の実現に向け、これまで培ってきた技術と経験を活用し、積極的に貢献していく所存であり、現在来年度の予算編成作業が進められているが、政府におかれても私たちの思いをご理解いただき、復活したと実感できるような規模の額となるよう、最大限のご支援をお願い申し上げます。」と述べられました。

来賓祝辞では、小泉昭男副大臣が「先人たちが長きに亘り連綿と守り抜いてこられた農地と水の上に、今日の1億2千万人を超える国民への食料安定供給が実現されている。引き続き、農地と水を将来に亘って整備保全し、次の世代へと継承していくことが我々の責務であると考えている。平成27年度に向けても、農業の競争力を強化するための農地の大区画化・汎用化、畑地かんがい施設の整備や国土強靱化に資する農業水利施設の耐震化、長寿命化、洪水対策などを推進していくため、最大限の予算確保に努めてまいりたい。」と述べられました。

引き続き、石破地方創生担当大臣、二階総務会長、稲田政調会長が挨拶し、土地改良の重要性を強く訴え、予算確保に努めることを力説されました。

次に三浦進農村振興局長から「情勢報告」が行われ、平成27年度予算概算要求等についての説明。秋田県大仙市農事組合法人たねっこの工藤修代表理事、並びに兵庫県明石市江井ヶ島土地改良区崎野和幸理事長から事例発表があり、岩手県土連田山清専務理事が緊急要請を含む要請文を朗読、満場一致で採択され、最後にガンバロウ三唱を熊本県土連荒木泰臣会長が力強く唱和して盛会のうちに幕を閉じました。

集い終了後、各県代表者は関係国会議員、関係省庁へと予算確保等の要望を行い、本県でも地元選出国會議員に要望をしてきたところです。

関東一都九県土連協議会で提案・要請要望活動を実施

～秋季総会における決議事項～

水土里ネット千葉 総務部

関東一都九県土連協議会秋季総会が平成26年11月7日に東京・平河町の「都道府県会館」で開催され、本総会で決議された「農業農村整備事業推進に関する提案・要請要望書」を、同日国会議員、財務省、農林水産省本省並びに関東農政局に対し提出しました。

当日は3班に分かれ、千葉県は国会議員、財務省を担当しました。特に谷垣禎一自民党幹事長にはお忙しい中時間をとっていただき、私たちの要請に熱心に耳を傾けていただき感謝に堪えません。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

提案・要請要望書要旨

平素から農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の農業・農村は、国民の生活を支える食料の安定供給という重大な役割を担っているほか、国土保全等の多面的機能の発揮など、国民全体が便益を受けています。

しかしながら、今日の農業・農村においては、過疎化、高齢化、担い手不足、地域活力の低下などの課題が山積しております。

加えて、全国各地の農業水利施設の老朽化が進行する中、東日本大震災からの復旧・復興はもちろんですが、国民の生命と財産を守るためにも、農村地域の防災・減災が喫緊の課題となっております。

このような状況の下、水土里ネットは、これまで培ってきた技術と経験を最大限に活用し、如何なる状況においても、農地・農業用水等の地域資源を良好な状態で次世代に継承していく覚悟であります。

国におかれましても財政状況の厳しい折とは存じますが、現下の農業・農村を取り巻く厳しい現状を踏まえ、関東地域の農業農村整備事業の計画的かつ着実な執行に必要な平成27年度の予算の確保と、農地、農業水利施設等の保全整備、農業・農村の活性化のために次の事項について、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記(項目のみで内容は省略しております)

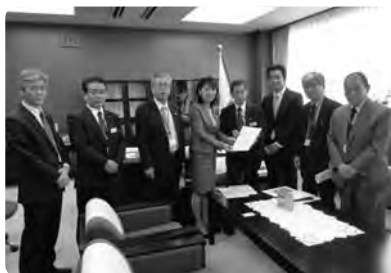
- 1 農業農村整備事業の当初予算の確保について
- 2 農地集積の推進及び農家の負担軽減について
- 3 農地中間管理事業への参画について
- 4 農業水利施設の維持管理並びに防災・減災対策の推進について
- 5 多面的機能支払交付金の法制化に伴う地域協議会の位置付けについて
- 6 再生可能エネルギーの推進について
- 7 土地改良区及び地方連合会への支援強化について

平成26年11月7日

関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会



谷垣自民党幹事長へ要請書



中川農水大臣政務官へ提案書



関東農政局末松局長・小林局次長へ提案書

平成26年度

千葉県農業農村整備技術講習会・ 発表会について

千葉県農村振興技術連盟
(農林水産部耕地課基盤整備室)

千葉県農業農村整備技術講習会・発表会は、これまで千葉県の農業農村整備事業を支えてきた経験豊富な農業土木技術職員が大量に退職し、経験の浅い若い世代の職員が増え、技術力の低下が危惧されている中で、職員の技術力の向上を目的に平成21年度から開催しているもので、平成26年11月21日に、耕地課、農地・農村振興課、各農業事務所、千葉県土地改良事業団体連合会など関係機関から87名の農業土木技術職員の参加がありました。



当日は、主催者を代表して井上耕地課長の挨拶の後、技術講習会・発表会に先立ち、技術士などの資格取得や農業農村工学会での発表や投稿など自己研鑽に取り組んだ職員を表彰する千葉県農村振興技術連盟賞授賞式が行われ、資格取得者1名、学会等での発表者2名、技術レポートなど投稿者2名の計5名の職員を表彰しました。



千葉県農村振興技術連盟賞授賞式

技術講習会は、技術力の向上に直結する情報を共有するため、農林水産省主催の研修会や講習会に参加した職員を講師として、①「事業管理について」②「ストックマネジメントについて」③「技術力向上のために」の3つのテーマで開催しました。

「事業管理について」では、農業・農村地域を支えるために必要な農業農村整備事業を計画的に実施することが重要であること、また、「ストックマネジメントについて」では、老朽化した農業水利施設などの長寿命化を図ることの必要性や補修工法等について講習を行いました。さらに「技術力向上のために」では、職員の現状と資格試験につ

いて説明があり、自己研鑽に励むきっかけとなりました。

技術発表会は、地元説明会などにわかり易い説明が出来るような能力=プレゼンテーション能力の向上を図るため開催するもので、各機関から選出された11組13名による事例発表があり、それぞれが現場での問題・課題への取り組み状況、新工法の事例紹介、会計実地検査の指摘に対する対応など多岐にわたり充実した内容の事例発表で大変参考になるものでした。

下記の3編については、今後、農業農村工学会での発表や学会誌へ投稿する予定です。

①可搬式ゲート巻き上げ機の利用について

水門の手動開閉装置の労力削減のため導入した巻き上げ機の利用状況とその効果について事例紹介

②排水機場運転に伴う川表水質の影響調査について

排水ポンプの運転に伴う印旛沼の水質、底泥等の状況変化を調査、解析結果を紹介

③ダム取水施設改修における河川環境への配慮と調査の事例

安房中央ダム改修時の汚濁対策と下流河川への影響について継続調査結果を報告



技術発表会

なお、今回の技術発表会では他に8編の事例等の発表がありました。

- 西広堰右岸擁壁の倒壊事例について
- 微量PCBが含有する絶縁油等の処分推進について
- 地盤改良とコンクリート矢板を組合せた揚水機場、ファームポンドの建設
- 桜井ため池の耐震点検結果と地元合意形成について
- 現場打ちコンクリート三面張水路について、浮力に対する会計検査院から指摘の事例紹介
- ほ場整備事業完了地区の地元対応について
- スtockマネジメント事業における機能診断と課題について
- 武田堰の水利権取得について

県では、今回の技術講習会・発表会の他、設計積算など各種の専門的な研修や新たに現場での営農研修などに取り組み、技術力の向上に取り組んでおります。

農業・農村を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、今後も農業土木職員一人一人が技術力の向上に取り組み、事業実施に当たっては技術に裏打ちされた責任感を持って業務遂行に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

第37回全国土地改良大会(山梨大会)に参加して

大会
テーマ

富士の国
やまなし発

～かけがえのない農業を次世代へ みどり 水土里育む土地改良～

印旛農業事務所 越川 勝昭

平成26年10月30日、31日と「全国土地改良大会山梨大会」に参加しました。

私は印旛郡市土地改良協会の県外視察研修として参加しました。参加された各改良区の方々をはじめ、事務局には大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



印旛郡市土地改良協会からの参加は34名、30日の朝7時に成田、7時半に佐倉を出発し、大会会場である「アイメッセ山梨」へ向かいました。

大会の前には、オープニングアトラクションとして、和太鼓の演奏がありました。とても迫力があり、聞き入ってしまいました。

そして午後1時から大会が開会されました。全国各地より約3,600名の水土里ネット関係者及び農業農村整備事業関係者の参加があったということです。本県からは208名の参加がありました。

開会宣言、国歌斉唱、開催県・主催者挨拶、歓迎のことばに続き来賓として小泉農林水産副大臣の祝辞がありました。

その後、土地改良事業功績者表彰が行われ、千葉県からは印旛沼土地改良区の泉水源衛理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受けられました。



次に基調講演として、農水省農村振興局・小林次長から「東日本大震災からの復旧・復興」として、震災における被害状況・復旧状況とその取組の報告が、また、「農業農村整備事業の展開方向」として、攻めの農林水産業の実行、ナショナルレジデンス(防災・減災)について等の説明がありました。

引き続き基調報告が行われ「東日本大震災 復旧・復興状況」について、岩手、宮城、福島各県土連から次の報告がありました。

- 岩手県陸前高田市の状況(岩手県土連)
- 災害査定における水土里情報システム
(宮城県土連)
- ふくしま復興・再生のあゆみ(福島県土連)

さらに、山梨県内土地改良事業優良事例地区として、2改良区から事例の紹介がありました。

- 笛吹川沿岸地区の概要(笛吹川沿岸土地改良区)
- 北杜市明野における耕作放棄地対策(明野茅ヶ岳土地改良区)

その後、専門学校山梨県立農業大学校の二人から大会宣言がなされました。最後に次期開催地である青森県の土地改良事業団体連合会長からの挨拶があり、閉会となりました。

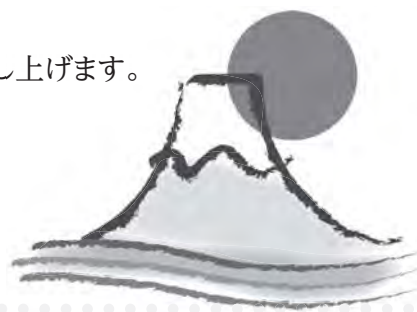


翌31日は「耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業 白州地区」を視察しました。ここでは、神奈川県の農業生産法人(有)グランパファームと地元農家の出資で、ドーム型水耕栽培施設を設置し、リーフレタス等の栽培が行われています。ここは高齢化や後継者不足からの耕作放棄地の増加が課題となっていた地区ですが、地域の検討を進めていく中、同社の意向が県に示され、企業参入が実現したそうです。現在40棟のハウスがあり、地元雇用約30名を創出しているということです。



このハウスはドーム式で、柱がないため影がなく効率がよく、成長に合わせて内から外へ移動することから、成長につれ作物の間隔が広がるため、スペースが有効に使えるということでした。

最後に、千葉県からの土地改良事業功績受賞者に改めてお祝いを申し上げます。以上、報告とさせていただきます。



国営かんがい排水事業 「両総地区」完工式が開催される

山武農業事務所 農林水産部耕地課

平成26年10月28日に、国営かんがい排水事業「両総地区」の完工式が東金文化会館(東金市)にて開催され、国、県、関係市町村、地元土地改良区や農業団体関係者ら、約180名が出席しました。

ここでは、完工式典の内容と両総地区の概要を報告します。

最初に主催者代表として、関東農政局末松局長の式辞から始まり、続いて、農林水産省農村振興局小林次長(農林水産大臣代理)の挨拶、関東農政局両総農業水利事業所播磨所長の事業経過報告と進行しました。

末松局長からは、「本事業により、改築、改修並びに新設によって整備されたかんがい施設によって、本地域の農業がますます発展されることを祈念します」との挨拶があり、また、小林次長からは、「整備された施設を、活用することによって、地域の特色を活かした豊かな農業・農村づくりが進められることを大いに期待しております」との挨拶がありました。

その後、来賓の祝辞へと移り、高橋副知事(千葉県知事代理)、實川県議会農林水産常任委員長(千葉県議会議長代理)、全国土地改良事業団体連合会中條専務理事(会長代理)、平木参議院議員、両総用水事業推進協議会志賀会長(東金市長)の方々が祝辞を述べられました。

高橋副知事からは、「かけがえのない地域の宝である両総用水の施設を活かし、農業者の皆様との連携を図りながら、農林水産王国・千葉の復活を目指してまいりたい」との挨拶があり、また、實川委員長からは、「事業により整備された農業水利施設が、今後とも大切に維持され、九十九里地域の農業の更なる発展につながるようご期待申し上げます」と挨拶がありました。

最後に、両総土地改良区森理事長(衆議院議員)から関東農政局末松局長へ謝辞が述べられ、完工式は、とどこおりなく終了しました。



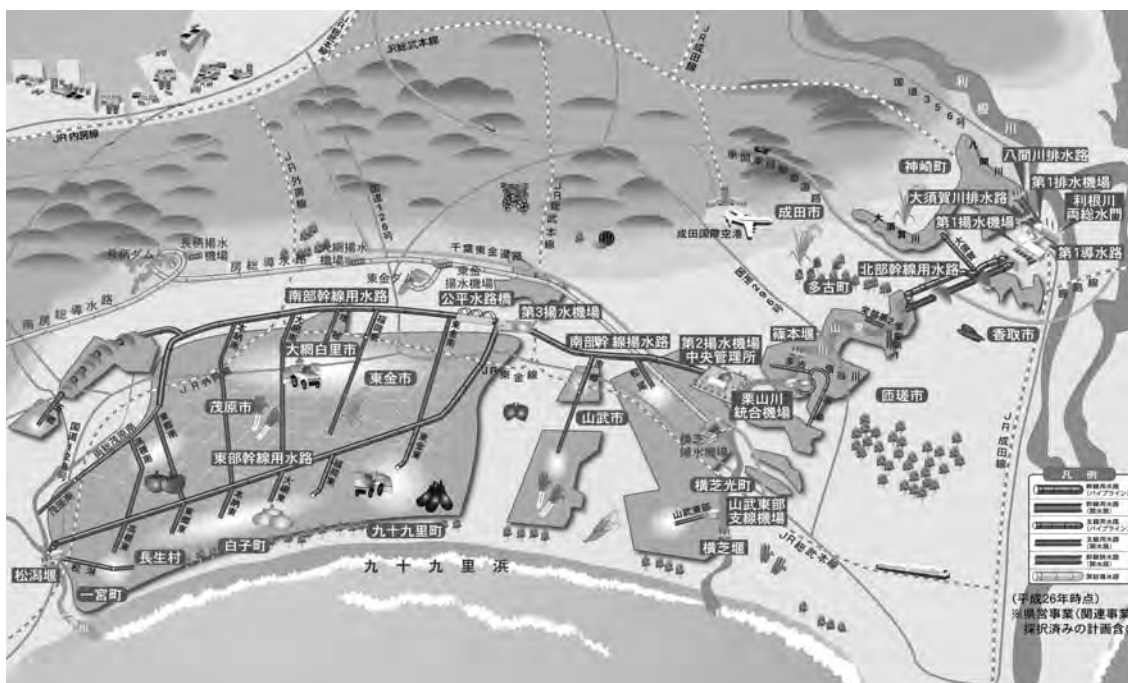
● 両総地区概要

両総地区は、千葉県北東部に展開する約1万8千ヘクタールの農業地帯で、九十九里地域の慢性的な水不足と佐原地域の常習的な冠水被害を解決するために、国営土地改良事業両総用水地区が、昭和18年に着工し、昭和40年に完了した。

その後、老朽化した国営造成施設の更新整備を図るため、平成5年度から現在の国営かんがい排水事業両総地区が、着工となり、本年度に完成する運びとなった。本事業の主な更新整備の特徴は以下のとおり。

- ①用水施設の開水路(南部幹線用水路等)のパイプライン化
- ②九十九里平野に東部幹線用水路(パイプライン)を新設
- ③第1排水機場と八間川、大須賀川排水路を改修し機能の向上
- ④コンピューターを駆使した水管理システムの導入 など

イラストマップ図



<概要>

- | | | | |
|-------|--|-------|-------------|
| ①受益面積 | 17,970ha(水田13,560ha、畑4,410ha) | ②総事業費 | 1,070億円 |
| ③工期 | 平成5年度～平成26年度 | ④主要施設 | イラストマップ図を参照 |
| ⑤都市用水 | 上水や工業用水などの都市用水の供給機能も担っており、遠くは、南房総地域や千葉臨海工業地帯等へも送水している(房総導水路) | | |
| ⑥その他 | 両総用水資料室(両総第2揚水機場内) | | |

本地区の地形的特徴及びそれと闘ってきた農業の歴史を写真やパネルで紹介

<終わりに>

本事業の実施機関である関東農政局両総農業水利事業所の所長、職員の皆様に長い間、大変お世話になりましたことに、心から謝意を表して本稿を終わります。

土地改良区向け公庫資金のご案内

～ 農業基盤整備事業に幅広くご利用いただけます ～

こんにちは！ 日本政策金融公庫(日本公庫)です。

日本公庫でお取り扱いしている土地改良区向けの資金は、用排水路の新設や改良、ほ場の整備、農道の整備、維持管理など、土地改良区の皆さまが実施している幅広い生産基盤の整備事業のほか、農業集落排水など生産基盤整備と一体として行う生活基盤の改善にも、補助事業・非補助事業を問わずご利用いただけます。農業農村整備事業に必要な資金については、ぜひ、公庫資金をご検討ください。

土地改良区向け公庫資金

資金名称	主な融資対象事業	融資条件		
		利率※1	償還期限 (据置期間を含む。) 据置期間	融資限度額
農業基盤整備資金	かんがい排水、ほ場整備、暗渠排水、農道整備、維持管理などの農地の造成・改良、農業集落排水施設の新設・改良 災害復旧	一般・補助事業 県 営 0.95% 団体営 0.80% 一般・非補助事業 0.80% 災害復旧事業 0.30～0.80%	償還期限：25年以内 据置期間：10年以内	地元負担額
担い手育成農地集積資金 ※2	経営体育成促進事業として採択されたほ場整備などの農地の造成・改良	無利子	償還期限：25年以内 据置期間：10年以内	次のいずれか低い額 ①当該年度の事業費の10% ②当該年度に負担する額の6分の5

※1 平成26年12月18日現在。災害復旧に係るものは借入期間により変動します。

※2 担い手育成農地集積資金は、農業基盤整備資金と一体として融資するもので、当資金単独でのご利用はできません。

(注) 詳しい融資条件につきましては、次ページの電話番号よりお問い合わせください。審査結果により、ご希望に添えない場合がございます。公庫資金をご検討の際は、お早めにご相談ください。

公庫資金の活用例

1 運営合理化

土地改良区が農業用水を利用した小水力発電施設や太陽光発電施設を設置する場合、その費用についても農業基盤整備資金の融資を受けることができます。この発電施設から得られた売電収入を土地改良施設の維持管理費や土地改良区の運営費などに充てることにより、土地改良区の負担軽減となります。

※ただし、売電収入が土地改良区の維持管理費・運営費の合計額を超えないことが必要です。

土地改良区事務所の建設、賦課金徴収システム等の開発・ハードウェア整備、維持管理に必要な巡回車の取得やコンピューターの取得、各種調査費についても、農業基盤整備資金の融資対象となります。

2 スtockマネジメント

戦後～高度経済成長期に造成された農業水利施設が多く、今後更新時期が集中します。施設機能を適切かつ効率的に発揮させるためには、深刻な機能低下が発生する前に、施設の機能診断に基づく適切な予防保全対策を行うストックマネジメントの取り組みが有効です。基幹水利施設のストックマネジメント事業についても、県と土地改良区の間で費用負担関係が定められる場合で、県が土地改良区から受益者負担金を徴収するときは農業基盤整備資金の融資対象となります。



3 農業集落排水事業

農業用水の水質保全、農業排水施設の機能維持、農村生活環境の改善を図り、また、公共水域の水質保全に大きく寄与する農業集落排水事業も農業基盤整備資金の融資対象となります。国庫補助事業に限らず、県や市町村単独補助事業のほか、環境省や総務省所管の個別排水処理施設整備事業で設置する合併処理浄化槽への接続費用についても、融資対象となります。



日本政策金融公庫
農林水産事業

お問い合わせ先：株式会社日本政策金融公庫 千葉支店農林水産事業
〒260-0028 千葉市中央区新町1000番地 電話043-238-8501(担当:服部)

「新たな農業に対応した土地改良区・市町村の役割に関する説明会」を開催

水土里ネット千葉 総務部

平成26年12月16日午後、昼頃から冷たい雨が降りしきる悪天候の中、県内の土地改良区、市町村等の役員200余名が参加し、オークラ千葉ホテルにて説明会が開催された。



主催者挨拶をする
水土里ネット千葉
薄井副会長

冒頭、水土里ネット千葉薄井副会長は挨拶の中で、「2013年12月に農水省が新たな農業を開拓するために『農林水産業・地域の活力創造プラン』を策定した。①農地中間管理機構の創設②経営所得安定対策の見直し③水田フル活用と米政策の見直し④日本型直接支払制度の創設の4つの柱を基本にして今後の農政を進めていこうというものである。1年が経過し様々な点が浮き彫りになってきた。昨今の米価の状況や農地中間管理事業に関する説明もこのあと行われるので、土地改良区の運営や市町村の業務に参考にさせていただきたい。」と述べた。



県を代表して挨拶をする
農林水産部山本次長

県を代表して挨拶に立った農林水産部山本次長は、「かつてこのように大勢の土地改良区・市町村の方々が一堂に会して行われる会議は初めての経験。県では今後の土地改良区の運営を危惧している。その背景には、昨今の農業情勢のダイナミックな変動にある。今後の土地改良区の運営がどのようにあるべきか、我々の考え方を説明するので参考にさせていただきたい。例えば財政的には、収入面では米価が下落、当然比例して農家収入が減ってくる。これの延長線にあるのは経常賦課金支払いに対する厳しい見方である。支出面においては、3.11以降電気料金の値上げが改良区を財政的に圧迫している。加えて、県内には大小約2,000の農業水利施設があるが、半分が耐用年数を超えている。県も老朽化対策は喫緊の課題であり重要施策に位置付けているが、この対策についても支出が伴うもので将来は厳しい。今日は説明する内容を改良区の経営的な視点から聞いていただきたい。そして、職員の方は帰ってから理事長や執行部に説明をしていただきたい。市町村におかれては、改良区の公共性を再度認識していただきたい。改良区は歴史的にも地域の農業を下支えしてきた。災害時など重要な担い手になる。更なるご支援をお願いしたい。県土連はもとより、改良区、市町村と連携を密にしてこの難局に取り組んでいきたい。」と述べられた。

当日の主題である「新たな農業に対応した土地改良区・市町村の役割」については、農林水産部井上耕地課長より、米を巡る情勢から土地改良区の具体的な今後の取り組みに至るまで、各種統計資料を基に、パワーポイントを使い詳細な説明がなされた。総括として、「農政の転換期において土地改良区にとってメリットが大きい支援制度がある。時期を逃さずに活用して欲しい。例えば、多面的機能支払制度などの助成を十分に活用すること、受託財産の多目的使用による財源の確保など、とした。終わりに、これからは、従来型の施設管理団体という立場にとらわれることなく、様々な支援施策を活用し地域の活性化をリードする指導者（コーディネーター）としての役割が期待されている。」と締められた。

引き続き、県及び県土連の担当者から各種事業（農地中間管理事業、水土里情報システムを活用した農地利用集積、多面的機能支払制度等）の情報提供も併せて行い、予定していた時刻を30分オーバーして終了した。

平成26年度利根川水系農業水利協議会 千葉県支部研修会の報告

水土里ネット千葉 管理指導部

利根川水系農業水利協議会千葉県支部では、平成26年11月14日土地改良会館大会議室において、総勢45名で本研修会を実施しました。

始めに、本協議会会長の成田用土地改良区理事長の成尾会長から挨拶があり、本年度開催予定でありました視察研究会(7月10日、11日)中止の経緯について、また、利根川上流部ダム周辺の降水状況、協議会千葉県支部の目的と意義等について説明があり、終わりに本研修会が今後の土地改良区運営の参考としていただけるよう挨拶がありました。



挨拶をする成尾会長



挨拶をする岩淵室長

来賓の挨拶では、耕地課岩淵事業計画室長から、本協議会の趣旨と利根川を水源とした水管理の大切さについて話をいただき、研修会に入りました。

一点目の情報提供として、耕地課事業計画室の三嶋主幹から、利根川水系農業水利協議会研究会の報告として、利根川水系の水源情報や渇水関連パンフレット追加印刷の実施等について、二点目は、利根川水系土地改良調査管理事務所の加藤行政専門員と佐藤専門官から、農業水利と河川法についてと題して、河川協議の対象範囲・原則・必要水量に関しての現地調査、水利権の由来・目的・安定性、また、渇水における取水制限の検討等について説明があり、引き続き、三点目として、当連合会会員支援センターの齋藤主査と丸副主査から、水土里情報整備の概要と利活用と題して、耕作情報の管理と集積計画検討への活用、また、受益情報の管理等について、活用方法やメリットについて説明がありました。



情報を提供する三嶋主幹

千葉県支部は、利根川水系における農業水利に関する諸問題を検討・協議すると共に、地域農業者の利益と福祉の増進を図り、農業の発展に寄与することを目的としており、本部協議会の渇水情報等から、会員に対して適切な広報活動、また、土地改良区運営の参考となる情報提供をこれからも行っていきます。



説明を行う佐藤専門官・加藤専門員



説明を行う齋藤・丸両氏

千葉県農村地域再生可能エネルギー推進協議会 第2回地方研修会の報告

水土里ネット千葉 管理指導部

千葉県農村地域再生可能エネルギー推進協議会主催による第2回地方研修会を平成26年12月5日に、埼玉県にある埼玉北部土地改良区連合にて開催しました。

本協議会は、平成26年3月24日に発足し、9月19日には第1回目の研修会を土地改良会館大会議室と東金ダムに設置されている太陽光発電施設を利用して実施しました。



研修会風景



現地研修(太陽光発電)

今回の研修会では、平成24年度に完成した国営神流川沿岸農業水利事業の管理主体である埼玉北部土地改良区連合の上田事務局長から、国営事業の目的、再生可能エネルギー施設の概要、施設のランニングコストについて、また、本年度土地改良区連合単独で整備する太陽光発電施設について説明をいただきました。

現在の施設の管理状況ですが、本年度までの2年間は施工者側が管理されており、維持管理費用は掛かっていませんが、次年度からは予算計上が必要ということでした。

各施設の状況ですが、小水力発電施設は出力が199kw、売電単価は消費税抜きで34円/kwで、年間売電費用は概ね1,400万円、太陽光発電施設は、4箇所93.1kw、売電単価は消費税抜きで40円/kwで、年間売電費用は概ね470万円になるようです。さらに土地改良区単独で設置する5箇所総計250kwの太陽光発電施設を本年度計画しており、資金については農林金融公庫資金を活用して施工するとのことでした。

また、売電に掛かる経理処理として複式簿記を実施しており、民間が開発したシステムを活用して実施していますが、土地改良区連合としては国営事業で完了した施設の管理であり、財産等が明確になっている事から、システム利用について問題は無いとのことでした。

本研修会では、実際に管理されている土地改良区連合から直接話が聞けたことで、多くの点で理解できたことは、今後の千葉県内での再生可能エネルギーの推進に大きく役立つ結果になると思われます。

終わりに、お忙しいところ本研修会で講義いただきました埼玉北部土地改良区連合の上田事務局長様には、深く感謝申し上げます。

また、本研修会に参加いただきました皆様には、研修会にご協力いただき、無事終了しましたことに、本誌面をお借りし厚くお礼申し上げます。



現地研修(頭道工)



現地研修(小水力発電)

平成26年度 農村振興リーダー研修会 (関東ブロック)に参加して

水土里ネット千葉 技術部 戸田 由美

平成26年10月29日から31日の日程で、全国農村振興技術連盟主催の研修会が埼玉県県民健康センターで開催されました。

活動組織のまとめ役や地域協議会のリーダー等を対象に毎年開催されているこの研修会は、平成26年度に従来の「農地・水保全管理支払交付金制度」もカバーした「多面的機能支払交付金制度」が創設され新たな制度としてスタートしたこともあり、地域活動を円滑に進めるために「住民参加」をキーワードとして、ワークショップ手法を通じ運営方法の演習等が行われました。



ワークショップ



講義

初日は主催者挨拶の後、「交付金制度」の変更点の説明があり、講義1で「ワークショップ」を活用した地域づくりとして、住民参加の効果や事例紹介、講義2では「環境教育」を活用した地域活動の活性化として、生きもの調査などの事例紹介と実施方法の紹介があり、2日目からの演習の組み分けが行われ参加者42名が5つのグループに分かれ、「初めまして」の自己紹介もそこそこにグループ名を決め1日目が終わりました。

2日目は演習です。栃木県、群馬県、埼玉県、長野県、千葉県と、環境も年齢も参加の立場も違う9人で編成された私のチームは、最初は遠慮がちだったものの、すぐに打ち解け実在する地域の環境を使用し提示されたテーマで意見を出し合い整理して最終日のプレゼンテーションに向けての作業で終わりました。

最終日は群馬県と長野県から1組織ずつ、取組状況や今後の課題などについて事例報告があり、参考になることが多くありました。

最後は5つのグループの発表会です。発表時間の制限が12分という中で、それぞれ2日目にまとめた意見をグループ内の全員が発表者となり、とても2日前に初対面だったとは思えない程のプレゼンとなりました。(ちなみに我がチームは制限時間を少々オーバーしましたが「アイデア賞」をいただく事ができました)



発表

この研修会の参加費は多面的機能支払交付金の対象(研修)となっていますので、活動組織の構成員になっている方々は参加してみたいはいかがでしょうか？

終わりに、本研修会開催にあたり、携わった関係者の皆様に深く感謝いたします。

第12回 印旛沼流域環境・体験フェア

～水と食と発見のある印旛沼～

※平成26年10月25.26日、鹿島川下流部左岸佐倉市角来大区画ほ場で開催 ゲスト約4,000人

印旛沼は「恵みの沼」として、県民をはじめ印旛沼に関わる全ての人たちの心の拠り所であり、財産であり、命の水の源でもあります。残念ながら印旛沼は、近年水質が全国でワースト1となるなど、決して良好であるとは言えません。「恵みの沼」を再生し、次世代に継承することは、現代に生きる私たちの責務であることから、印旛沼流域水循環健全化会議では多くの方々に参加いただけるイベント「印旛沼流域環境・体験フェア」開催して、現状を知って頂き、環境改善に向けたそれぞれの取り組みを紹介し、また母なる印旛沼や流域の持つ魅力を発信するなど、流域住民・県民に対して、印旛沼への関心を深めていただくとともに、印旛沼の水循環再生への機運を高めることといたしました。千葉県印旛郡市土地改良協会では、これに賛同し流域に視点を置いた取り組みの一つとしてこれを後援して、自らも参加型広報活動としてパネル展示ブースを開設しました。

印旛沼を恵みの沼としたのは、農業・土地改良のおかげと思いつつ、ここはおごらず利根川由来のカワヒバリ貝、印旛沼由来のナガエツルノゲイトウなど外来生物による管理阻害、農業・農村の持つ多面的機能が支える母なる印旛沼をアピール!さらに、生業である国営土地改良事業や水土里ネットの農業振興として米粉加工品の試食・アンケートも実施して「広報も循環型」で活動いたしました。また外来生物防除に関しソーシャルキャピタルの取り組みが認められ、水土里ネット印旛沼佐倉西部支区が印旛沼・流域再生大賞を受賞しました。



第三回印旛沼・流域再生大賞授賞式

※印旛沼地区農業農村整備事業推進協議会・印旛地域米粉普及会・佐倉市部会協働ブース



印旛郡市土地改良協会等広報ブース

老いた印旛沼は、「若き行動力と若い知恵」を求めていると察し、研究機関や大学、高等学校をフェアに誘い出展して頂きました。その数、3研究機関11大学2校等学校で、まるでカルチャータンが引越してきたようです。



茨城大学広報ブース



東邦大学広報ブース



敬愛大学・千葉黎明高等学校広報ブース

『漢書 律曆志』では、「昧曖(まいあい)」の「昧」と記されています。

果実が熟しきれていない未熟な状態を表すという解釈と、「暗い」という意味で植物が茂り、暗く覆っている状態を表しているという二通りの解釈があるとされています。

「未」としたのは庶民に十二支を浸透させるため、動物の名前を当てたとされていますが、選ばれた理由は定かではないと言われています。

馬等と同様に古来から人との繋がり深い動物でもあり、世界中で羊との関連ある言い伝えや諺などが残っています。

「未」の字は、象形文字で木の枝葉の茂った様を表しています。

未の月にあたる6月は、多くの作物が成熟する大切な季節で豊作への願いがこめられています。

未は、干支(十二支)の8番目。前に午(馬)、次に申(猿)。

方角では南南西(南から西へ30度の方角)の方角です。

羊は善良な動物で、群れをなして同じ行動を取り大勢で暮らすことから、群の漢字は羊から作られました。群れなす羊は家族の安泰を意味しています。



技術部

小林 正樹(1955年生まれ)

新年あけましておめでとうございます。

早いもので、5回目の年男を迎える年齢になりました。私は早生まれですので、本年3月に何とか無事定年を迎えることが出来そうです。これもひとえに、諸先輩方、同僚の方々、および関係者の皆様のおかげと、深く感謝申し上げます。

私は、千葉県農業開発公社解散後、当連合会にお世話になっておりますが、両職場では土地改良事業を中心に、草地造成事業、空港代替地造成事業、治山事業等、思い起こせば様々な仕事に携わってまいりました。近年では東日本大震災の災害復旧事業が強く記憶に残っております。このような仕事の中で悲喜こもごもありましたが、なんといっても工事完了後に地元の方々から喜ばれた時がやはり一番達成感を感じられました。

60歳になり一区切りはつきますが、自分自身まだまだ若輩者と思っております。今後は健康に留意し、新たな気持ちで仕事に取り組んでまいりたいと考えております。

本年も何卒よろしくお願いいたします。

会員支援センター

諸岡 由紀夫(1955年生まれ)

新年あけましておめでとうございます。今年5度目の年男(還暦)を迎えようとしています。

早いもので、社会人となって、早三十五年、もうすぐ定年を迎えようとしています。この間、設計コンサルタント、千葉県農業開発公社、そして最後に千葉県土地改良事業団体連合会と仕事の変化もありました。

定年を迎える今年をどのようにすればよいか、正月休み中考えてみました。第一に健康の面です。過去二年間腰痛で仕事を休む日がありました。何をするにも健康第一だと考えました。第二に仕事の面です。ラストスパートのつもりで、悔いのない年にしたいと考えました。

今年は、皆様もご承知のように未年です。未年の人は、見た目大人しそうに見えますが、「芯が強く負けず嫌いの頑張り屋」「人情味のある温かみを感じさせる人」などと言われています。この言葉を胸に連合会を良い方向に導ければと思います。

連合会職員として残された時間はわずかですが、皆様方には、今後ご指導いただけますようよろしくお願いいたします。

技術部

田中 勇次(1967年生まれ)

新年明けましておめでとうございます。

月日のたつのは早いもので、気がつけば今年で4度目の年男を迎えました。

私は根っからのG(ジャイアンツ)党でありまして、1度目の年男にあたります小学生の頃はプロ野球選手“巨人の星”を夢見ていたことが思い出されます。その後、中学・高校と野球で汗を流し、今では、“草野球の星”となればいいなと思いつつも、年々走攻守すべてに衰えが隠せない有様です。とにかく、セリーグ4連覇・日本一奪還!頼みますよ、菅野君・阿部君・そして坂本君。

さて、今年の抱負であります、本会に勤務し30年目を迎えることとなります。まずは、今年に限ることではありませんが、“健康第一”健康で無ければ良い仕事を遂行することは出来ません。次に上げるとすれば、一つ新たなスポーツ系の趣味を持ちたいな、などと考えております。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

技術部

大武 和己(1967年生まれ)

新年明けましておめでとうございます。

今年は未年ということで、月日がたつのは早いもので4回目の年男を迎えることになりました。

年末年始は、実家にもどりゆっくり正月を過ごしております。(食っちゃ寝での繰り返しですが……)

ここ数年ですが、このような食生活を続けていますと、当然、ポッチャリ体型となることは誰でも解ることです。体重が過剰となりますと、疲れやすく、足腰の関節を痛める原因にもなり、更には健康障害を誘発させる可能性もあります。

3年程前よりDEに励み10kg程の減量に成功して今日まで維持しております。(3回の^{ダイエット}RBを乗り越えて……)

健康でなければ、仕事にも支障がありますし、心身にも良くありません。その頃より、食事にも気を遣い、一日の摂取カロリーを計算して、食物を選ぶように心掛けています。たまに、日々のストレスから暴飲暴食となることも幾度かありましたが、過去のRBの辛さを思い浮かべながら体調を整えて、今に至っております。

今年は、健康管理に十分注意していきたいと思っています。最後に、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

本年も宜しく願いいたします。

今後の会議・研修会の開催予定

土地改良区役職員研修会

土地改良区役職員の皆様方を対象にした研修会を開催します。

- 日 時
平成27年2月5日(木)13:00
~6日(金)12:00
- 場 所
鴨川館(鴨川市西町1179番地)
TEL 04-7093-4111
- 受講対象者
土地改良区の役員及び職員

換地委員等実務研修会

換地処分事務を新たに着工(予定)する準備委員、換地委員、事業推進委員、土地改良区の役員、農地流動化推進委員及び集落のリーダー等を対象に開催します。

【夷隅管内】

- 日 時 平成27年2月24日(火)10:00~
- 場 所 いすみ市桑田公民館

【印旛管内】

- 日 時 平成27年2月25日(水)10:00~
- 場 所 やちよ農業交流センター 研修室

【夷隅管内】

- 日 時 平成27年2月26日(木)10:00~
- 場 所 勝浦市役所 4階大会議室

年男あつまれ!

会員支援センター

吉原 欣司 (1967年生まれ)

新年、明けましておめでとうございます。

気がつけば今年で4回目の年男、もう48才になるんだなあとしみじみ痛感しております。

今年の抱負といえば、多面的機能支払交付金における現地調査確認作業を行っておりますが、千葉県農農村地域でも少子高齢化および過疎化等により、農業を支える共用の設備を維持管理するための共同作業が難しい為、農業に関係する共用の設備の維持管理に支障が生じ始め、農家の負担が増加することも懸念されてます。

この為、従来から行われている農業者等のその種の共同作業に対して、国および地方自治体が資金を援助する事となったのですが、その機能が、適正に行われているかどうかの確認作業を現地で行っているのですが、今まで現場作業を行っていないが為、少々歩いただけで息切れをする始末。これからもっと寒くなるため、風邪等の病気を引き起こすと、自分だけでなく周りにも迷惑がかかるため、もっと体力を付けなければと思います。事実、年始めに病気にかかってしまい、寝正月となってしまった為、早急に対処しなければと思っています。

では、皆様も風邪などを引かないようにご健勝をご祈念申し上げます。

会員支援センター

丸 和史 (1979年生まれ)

新年、あけましておめでとうございます。

土連の職員として二回目の年男を迎えました。前回の未年は未熟極まりない社会人1年目でしたが、当年36となり、結婚3年目、1歳9か月の息子を持つ父親になりました。

近年の関心事は専ら子供のことで、彼の一举一動に喜んだり驚いたり、振り回され放しの毎日を送っております。

日々感じることは子供の存在は大変ありがたいもので、親を必要としてくることで、私自身の価値も改めて認められているかのように感じます。親が子に注ぐ愛情以上に、子は親に対して愛情を与える存在とは、どこかで耳にした言葉ですが、まさにその通りだと子供が笑う度、泣く度にふと気付かされ、私が息子に親として育てられている思いです。社会人として14年目、親として2年目と未だ力不足な私ですが、皆様はじめ家族や同僚達に支えられながら、公私ともにこれからも精一杯頑張っていく新年の決意です。

本年もよろしくお願いいたします。



第58回通常総会

本会の第58回通常総会を下記のとおり開催します。会員の皆様のご出席をお願いします。

- 日 時
平成27年3月19日(木)
14:00~
- 場 所
千葉県土地改良会館
4階大会議室
(千葉市美浜区新港249番地5)

平成26年度
水土里情報利活用
促進協議会通常総会

平成26年度水土里情報利活用促進協議会の通常総会を下記のとおり開催します。会員の皆様のご出席をお願いします。

- 日 時
平成27年3月24日(火)
13:00~
- 場 所
千葉県土地改良会館
4階大会議室
(千葉市美浜区新港249番地5)



第18回

千葉の水回廊ウォーク & 疏水百選 印旛沼ウォークのご案内

花見川－新川－印旛沼の水回廊は、「美しい日本の歩きたくなるみち500選」の道筋です。印旛沼は、私たちの生活や国土を潤す「みずのみち」として先人によって築かれたもので、日本の「疏水百選」に認定されました。この悠久の道につながる水辺、桜、花木、水田風景、野鳥の声など心地よい自然に触れながら歩きを楽しみましょう。

今回で18回目を迎える「千葉の水回廊ウォーク&疏水百選 印旛沼ウォーク」は、心地よい自然に触れながら歩きを楽しむことにより、参加者の心身の健康を増進するとともに食糧生産だけではなく、私たちの県土や環境の保全に重要な役割を果たしている疏水や農業・農村への理解を深めるために行っているもので、前回は300人を超える参加者がウォーキングを楽しまれました。

なお、詳細については、NPO法人ちば歩こう会に直接お問い合わせください。

1 実施日 平成27年4月4日(土曜日) 雨天決行

2 歩行内容 (雨具、帽子、昼食、健康保険証などは各自ご持参ください。)

	30kmコース	20kmコース	10kmコース
集合場所	京成酒々井駅東口	JR佐倉駅	新検見川公園 (JR総武線新検見川駅 徒歩2分)
集合時間	午前8時	午前9時	午前9時
ゴール	大和田排水機場(京成大和田駅徒歩12分、京成勝田台駅徒歩15分) ◎受付は16時迄		
歩行方法	コース地図と矢印標識を見ながら各自のペースで歩く自由歩行です。		

★コースの概要については、次頁の地図を参照してください。歩行用のコース地図は当日配布します。

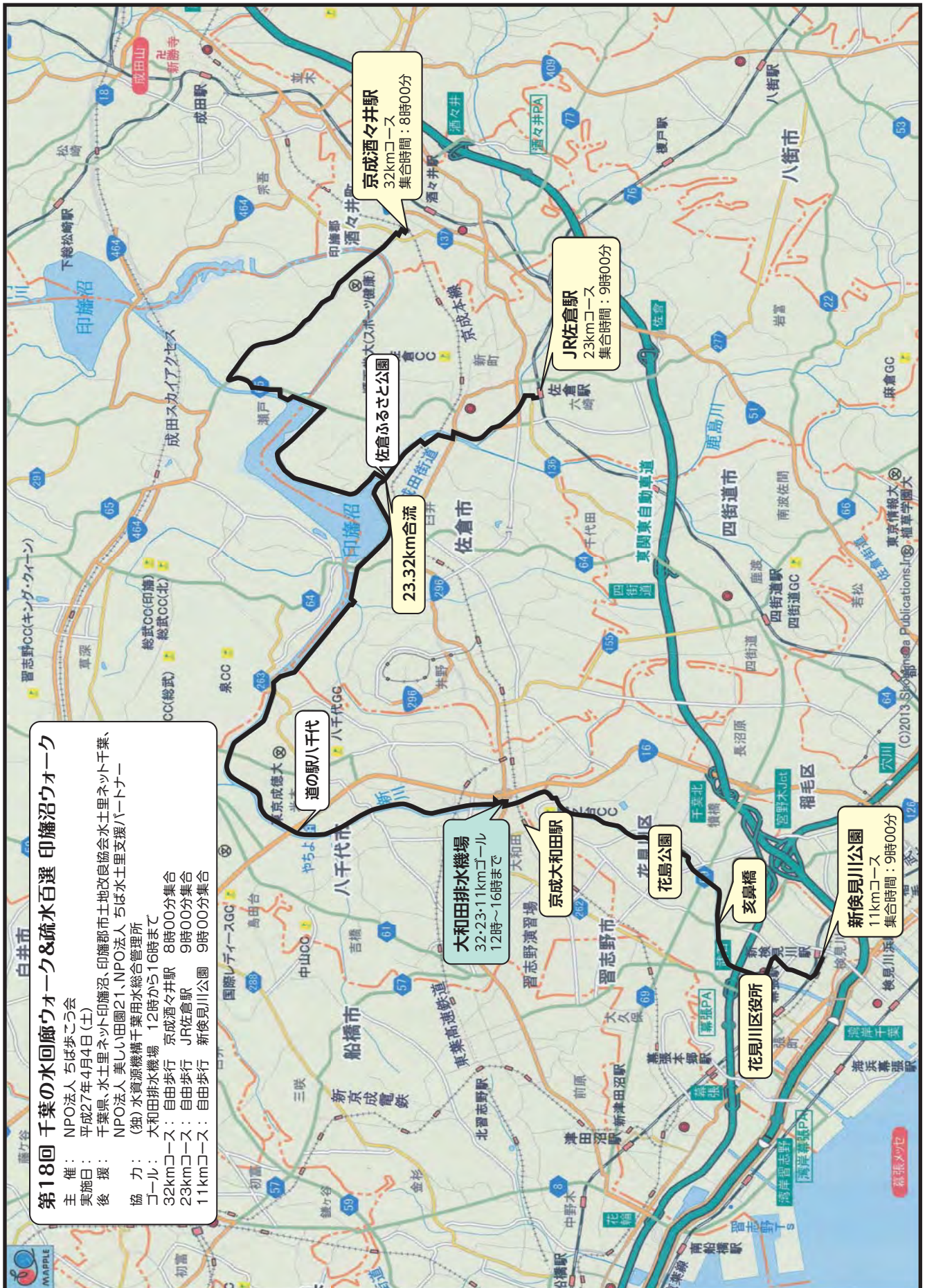
3 参加費 500円 (小学生以下無料)(コース地図、完歩証、傷害保険料、飲料水、農産物など)

4 参加申込 当日、各集合場所で受付します。

5 免責範囲 参加者は事前に健康診断等を受けて、万全の体調のもとに、参加してください。万一事故が発生した場合、主催者は保険による適用範囲以外の責任は負えません。

6 問合せ先

NPO法人ちば歩こう会	TEL 080-3421-0267 (担当 田口)
水土里ネット印旛沼	TEL 043-484-1155 (担当 高橋)
千葉県印旛農業事務所	TEL 043-483-1131 (担当 篠原)
NPO法人美しい田園21	TEL 090-8962-6953 (担当 生駒)



謹賀新年

本年もより一層の

ご指導ご支援を賜りますよう

お願い申し上げます

千葉県土地改良事業団体連合会

会長

林 和雄

副会長

山田 一夫

副会長
常務理事

薄 井 厚

外

役員一同

平成27年



水土里ネットちば 305号 (平成27年1月発行)



発行

水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5
TEL.043-241-1711(代) / FAX.043-248-2563(代)

印刷

株式会社ニッセイアド
〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3
TEL.043-206-7752 / FAX.043-206-7753